

過疎集落等自立再生緊急対策事業 実施計画書

(1) 事業実施過疎集落生活圏の概要

市町村名	高野町										
事業名	筒香生活圏総合対策事業 ～廃校舎を活用した筒香元気復活プロジェクト～										
生活圏の名称 (※1)	筒香生活圏			事業実施主体			筒香寄合会 (15人) 筒香自治会 (55人) 筒香婦人会 (23人) 筒香林業研究グループ (12人)				
既存住民計画の有無 (※2)	有	地域振興法等の 指定状況(※3)	過疎	特農	山村	半島	離島	沖繩	奄美	小笠原	辺地
			○	○	○	○					○
連携する集落の概要	*それぞれの集落の人数、世帯数、高齢者（比率）、年少者（比率）を記載してください。 時点は把握されている最新の数値とし、時点及び出典（H22 国調、住基等）を記載ください。										
集落名	世帯数	人数	高齢者（比率） 65歳以上			年少者（比率） 0～14歳					
上筒香地区	31世帯	47人	33人（70%）			0人（0%）					
中筒香地区	13世帯	24人	17人（70%）			0人（0%）					
下筒香地区	11世帯	16人	10人（62%）			0人（0%）					
	世帯	人	人（%）			人（%）					
	世帯	人	人（%）			人（%）					
	世帯	人	人（%）			人（%）					
	世帯	人	人（%）			人（%）					
	世帯	人	人（%）			人（%）					
	世帯	人	人（%）			人（%）					
生活圏全体	55世帯	87人	60人（69%）			0人（0%）					
(生活圏全体における生産年齢人口に対する高齢者・年少者の割合)											
$\frac{\text{高齢者(人)} + \text{年少者(人)}}{\text{生産年齢(15~64歳)人口(人)}} = \frac{60人}{27人} = 222\%$											

※1 市町村における生活圏の位置、範囲及び圏内にある施設（役場支所、公民館、小中学校、診療所、郵便局、JA等）が分かる地図を添付してください。

※2 本事業の趣旨に沿うような既存の住民計画等がある場合には、当該計画を添付してください。

※3 地域振興立法等の指定状況に該当がない地域においては、指定のある地域に準ずる地域であることが分かる資料（任意様式）を提出してください。

## (2) 生活圏の現状と課題

筒香生活圏は、和歌山県高野町を大きく2つの地区に分けると高野山地区と富貴地区があるうちの富貴地区の中に属する。筒香生活圏は上筒香・中筒香・下筒香の3集落で構成されており、平成24年12月の人口が87人で高齢化率は69%と社会的共同生活が困難となっている限界集落である。それに加え、地域住民間の交流が高齢化等に伴い減少しているうえに交流施設も整備されていないため、高齢者の自立支援や安否確認が可能となる施設整備が急がれる。また、森林面積は約2,078haを占めているにもかかわらず、衰退しつつある林業を再生するためには、後継者の問題に加え地域外交流を促進し、間伐材等を活用した交流体験を実施していくことが必要である。それに加え、地域資源である「マツタケ」「みょうが」の生産量は全盛期に比べると後継者の問題等で減少している。これらを持続可能な産業にするために、新商品の開発に向けた加工所を整備し、地域ブランドを確立し、販売を促進していく必要がある。

### 現 状

【人 口】 87人【集落数】 3集落【高齢化率】 69%

【施 設】 高野町立筒香小学校(廃校)、筒香多目的集会所

【地域資源】 丹生神社 丹生川

【主 産 業】 特用林産(ミョウガ、マツタケ)

・ミョウガ：生産者15人、生産量約21t

・マツタケ：生産量約1t、松林約102ha

【特 産 品】 ミョウガ、マツタケ

【鳥獣被害】 イノシシ、シカ等による農作物被害

【交 通】 『夢たまご・ハイランドタクシー』町営 8人乗

・下筒香～富貴(平日4便、土日2便)

・東富貴～五条バスセンター(平日4便、土日2便)

【生活環境】 高野町立富貴診療所 医師1名(常勤)

・診療 平日(8:40～11:30) 第4金曜日(13:30～14:30)

眼科

休診日(土日曜日、祝日)



### 課 題

#### 1. 移住・交流や高齢者支援等の活動拠点が必要

- ・地域内外の住民との交流を、広く推進する総合的な活動拠点づくりが必要
- ・高齢者への自立支援や高齢者同士の交流拠点の整備が必要
- ・U I ターン者等の移住・定住を推進するための様々な取り組みが必要



#### 2. ミョウガ畑の放棄やマツタケの生産量が低下、地域力が低下

・貴重な収入源である特産品のマツタケ生産量の低下を防ぐ取り組みが必要

・担い手の高齢化による放棄ミョウガ畑・遊休農地の再活用が必要

・U I ターン者等の移住者を受け入れるために必要な就労の場が必要



### (3) 事業を実施する理由及び目的

筒香生活圏では地域内交流の拠点として利用されていない廃校舎を再活用し地域住民の「サロン」を整備することにより、高齢者が気軽に出入りすることができ、高齢者の自立支援や日常的な安否確認も可能となる。また「体験交流施設」整備を行うことで、間伐材や地域資源（マツタケ・みょうが）を利用し、地域外の都市部住民等との交流体験を実施することで、地域住民に活力をもたらし、地域を再生する絶好の機会となる。また同時に、地域資源である「マツタケ」「みょうが」の新商品の開発に向けた加工品を製造する加工施設の整備を行うことにより、地域住民の生産意欲が高まり、生産品を買い取るシステムの構築ができることで、生産高をアップさせ、地域ブランドを確立した、販路拡大につながる。また、「空き家」を確保しながら、地域全体で移住推進を目指し、ホームページの作成、フェイスブック、チラシの作成等で情報発信をすることにより、移住交流人口の増加につながる。



廃校となった筒香小学校



※地域の課題、対策について何度も寄合会を開催してきた。

### (4) 生活圏の目指す将来像

筒香生活圏では、廃校舎に、「高齢者サロン」、「体験交流施設」や「食品加工所」を整備し、地域内外交流を積極的に推進しつつ、同時に、地域資源活用（マツタケ・みょうが）による新商品の開発・販路拡大を行いながら、地域が自立し、人も地域も、経済も豊かになることを目指す。加えて、第二の故郷になっていただけるよう定住を促進しながら人口増につなげる。

#### 目指すべき姿

- 交流・移住の推進で、元気な集落づくり!
- 特産品(マツタケ、ミョウガ)の生産・販売力向上で活力向上!
- 筒香生活圏を第二の故郷へ!

#### 分野ごとの将来像

##### 《交流・移住・環境対策》

##### ○交流・体験施設の整備

■ 都市部と地域との間で交流人口増

(拠 点) 廃校となった筒香小学校を体験・交流拠点として改修し再活用

※運営は集落支援員がバックアップ

(体 験) 「ミョウガ作り隊」を地域内外から募集し、栽培から収穫・調理までを体験メニュー

として提供することにより生産力アップ、耕作放棄地の減少

**※畑づくりから収穫までを実施**

木工教室やまき作りなど、様々な「ものづくり」を体験メニューとして提供することにより間伐材の活用や木材のPRが可能

**※体験メニュー（看板作成・椅子、テーブル、コースター、薪、小物入れ）**

（交 流）地域の「立ち寄り処」として、地域内外各団体の情報交換及び連携・交流の場や特産品・木工品等の工芸品販売等に活用

**○高齢者の交流・活動拠点整備**

■ 高齢者の安否確認、生きがい対策

（拠 点）廃校の筒香小学校の一部を、高齢者の交流や活動拠点とした高齢者サロンに改修することで、地域内交流が生まれ、高齢者の自立支援や憩いの場となる。

**※サロンは週に3回オープン。手芸教室は月に2回開催。料理教室は月に2回開催。**

（交 流）「高齢者サロン」は地域で運営し、高齢者の為のイベントや安否確認を実施。



**○移住推進を目指した情報発信**

■ 空き家を確保し地域内外、都市部に PR することで移住人口増

■ 様々な体験を通じ、地域を PR することで移住を推進

■ 空き家情報や地域イベントを発信することで移住を推進

（空き家）移住希望者を受け入れるための「空き家」確保に向け、地域で説明会を開催するための場が生まれる。

**※平成25年1月末現在の筒香区内の空き家の数4件 富貴地域空き家の数20件**

（交 流）筒香小学校での様々な体験・交流を通じ、地域への移住を推進できる。

（情 報）「空き家情報」や地域イベント等の情報を町外に発信可能となり地域外交流が増。加し、地域外からの訪問者に空き家を PR できる。HP を作成し情報発信。



**○「ホテル」を通じた環境教育の拠点整備**

■ 地域住民と管内小中学校が連携しホテルを通じた環境対策  
地域全体で環境問題に取り組む

■ ホテル復活隊を募集し、ホテルの生息地復活

（教 育）富貴小中学校と連携し、川の水質検査を行い成分検証をする。

（環 境）河川清掃活動を行い、環境活動を推進することで地域全体で環境問題に取り組む。

**《産業対策》**

**○マツタケの生産・加工・販売対策**

**①生産量の拡大**

■ 生産量拡大に向け外部講師による学習会開催により生産量拡大につなげる

（学習会）生産量拡大に向けた学習会を、外部講師を招いて開催することにより生産力（収穫量30%アップ）を上げるための意識向上、知識向上になる。

（試験林）「マツタケ試験林（約800㎡）」を設定し、学習会での内容を実践し生産量拡大を目指す。

## ②新たなマツタケ資源の活用

### ■新製品の加工品販売で売り上げ増

(直売所) ブランド強化と新たな販路開拓として近隣の直売所や高野山内の商店で販売することで販路拡大、増産につながる。

※販売先 (やどり温泉、勝間屋商店 (高野山)、高野やま里市、産直市 (年2回))

(高野山) 精進料理を提供している高野山内の宿坊と連携した新たな販路拡大

### ※提携宿坊寺院3件

(加工) 筒香婦人会が中心となり、廃校舎の筒香小学校を拠点として、マツタケを活用した新たな加工品(フリーズドライ)(冷凍)の試作・販売に取り組むことでPRになり活力向上となる。

※フリーズドライ製品は瞬間に戻すことができ、風味はより深まる。

※冷凍は急速冷凍庫があれば可能。

(その他) 「マツタケ祭」を開催し、即売会を開催するなどマツタケのPRを実施することで地域内外交流が増える。 ※地域知名度が上がる。



松茸フリーズドライ試作品



水で一瞬にして戻った状態



袋からあけたフリーズドライ松茸

## ○ミョウガの加工・販売対策

■加工所の整備を行い、加工・販売することで生産量増

■高齢者による生産量が増になることで生きがい対策

■生産量増によりブランド強化を図る

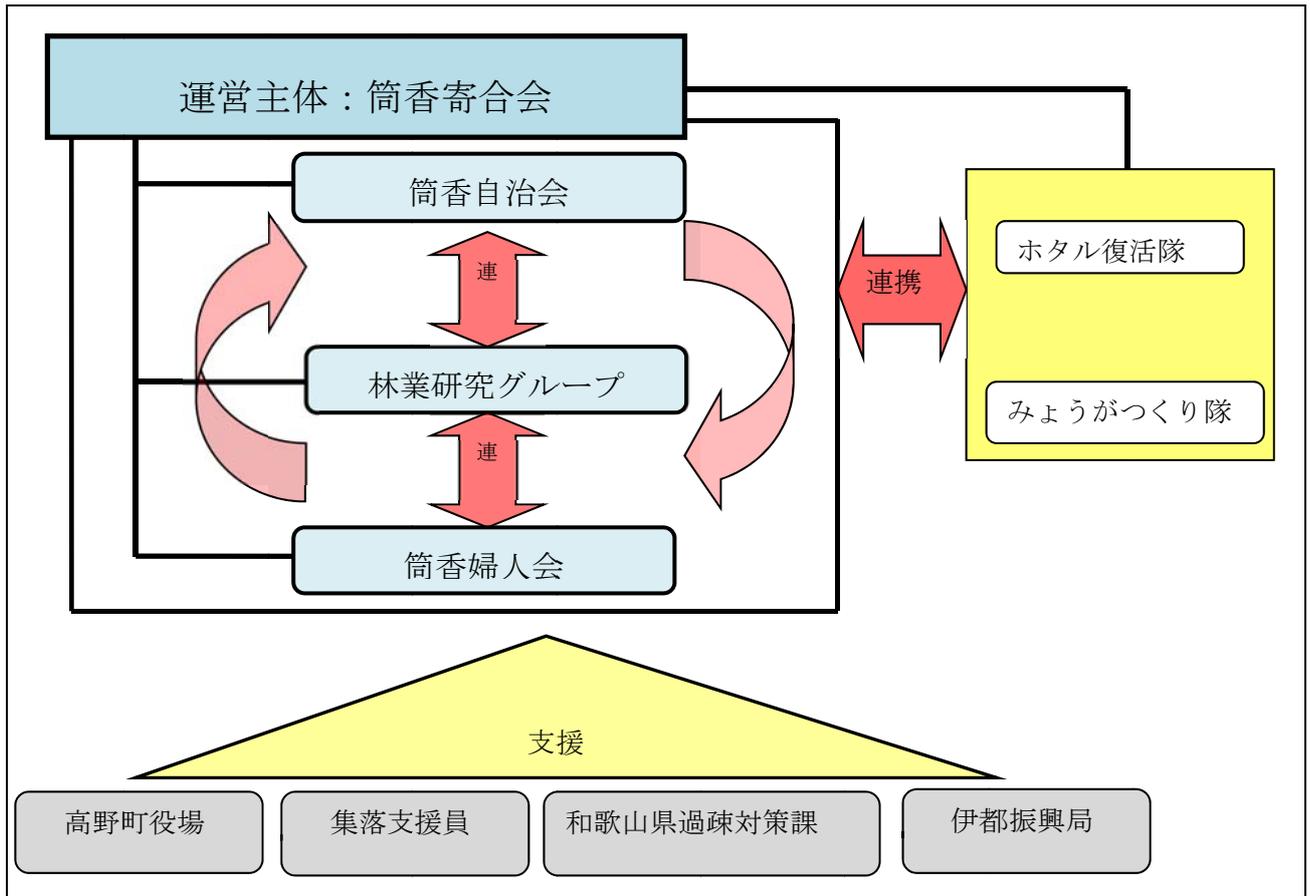
(加工) 筒香婦人会が中心となり、廃校舎の筒香小学校を拠点として、地元産品のミョウガを活用した新たな加工品の試作・販売に取り組むことにより生産量アップ、活力向上となる。みょうがのフリーズドライ製品開発を行う。

(販売) JA 紀北かわかみと連携し、ブランド強化を図り、販売促進に繋げる。

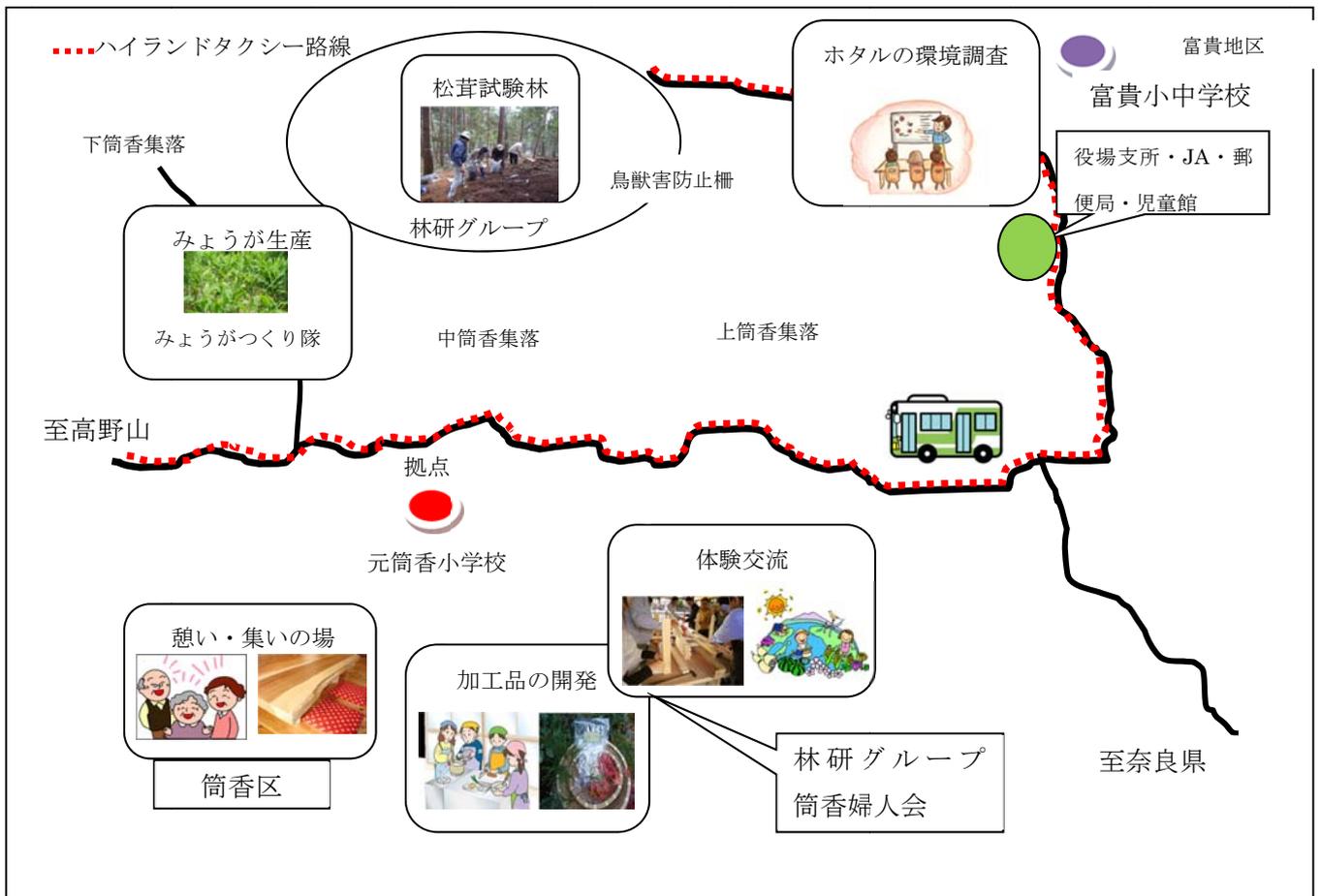


産直市で販売する筒香みょうが

(5) 事業の実施体制



イメージ図



(6) 事業の内容

総事業費			
交付申請予定額			
事業全体の概要： 廃校となった小学校を体験交流施設や高齢者の自立支援・安否確認のための「サロン」を整備する。また、地域資源（マツタケ・みょうが）を活用した新商品製造開発（ブランド力強化）のための加工施設を整備し、地域資源を活用した様々な体験活動を通じて、情報発信を行い移住推進を図る。同時に「ホタルが飛び交う村」を目指し環境教育、水質検査、環境整備活動を行いホタルの生息する環境を整える。			
個別事業の内容：			
事業名	事業実施主体	概算事業費 (うち交付対象経費)	事業内容
環境教育の拠点整備事業	寄合会（ホタル復活隊）		①生息地となる川の清掃活動、水質検査 ②ホタル復活に向けた勉強会の開催
まつたけ対策活動事業	林業研究グループ		①生産量拡大に向けた研修会 ②試験林を設定した栽培実験 ③松茸の加工品生産、販路拡大
みょうが対策活動事業	筒香婦人会		①みょうがの加工品生産 ②PR活動
地域外交流事業	寄合会		①みょうが作り隊の結成と募集 ②地域資源を活かした体験を提供
地域内交流事業	寄合会		①地域住民の交流サロンを整備
移住推進事業	筒香自治会		①移住推進に向けた情報発信
活動拠点整備事業	寄合会		①活動拠点整備のため廃校舎を改修